

氏名(本籍地)	金子 智 栄 子 (東京都)		
学位の種類	博 士 (学術)		
学位記番号	博乙第 71 号		
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 16 日		
学位授与の要件	昭和女子大学学位規則第 5 条第 2 項該当		
論文題目	保育者の力量形成に関する実践的研究 －有効な保育者養成と現職研修のあり方を求めて－		
論文審査委員	(主査)	昭和女子大学教授	藤崎 春代
	(副査)	昭和女子大学教授	三浦 香苗
		昭和女子大学教授	押谷 由夫
		千葉大学教授	中澤 潤

## 論文要旨

近年、虐待の増加にみられるような家庭や地域の子育て力低下が憂慮されるなか、保育者(幼稚園教諭と保育士の総称)による子育て支援に大きな期待が寄せられている。行政も、こうした期待に応えうる保育者を確保するため、保育士の国家資格化、養成カリキュラムの見直し、現職者研修の義務化などの施策を立て続けに行ってきた。そして、こうした社会的要請を受けて、保育者養成にかかわる教員も、養成教育の再検討を迫られるのみでなく、現職者研修への支援においても新たな役割を担うことを求められ始めた。本論文は、こうした社会背景のもと、保育心理学の専門家である申請者が養成校教員として実践してきた、保育科学生(保育科)の養成における実習指導および現職保育者の研修への支援を研究の俎上に載せ、養成校教員による効果的な保育力量形成援助モデルを提言しようとするものである。

第 I 部では、保育者の力量形成に関わる文献研究およびそれに基づいて本論文で問題とする点について論述されている。1 章では、先行研究の精査に基づいて、多様化する保育ニーズにも対応しうるように現代的視点から 6 分類 20 項目の力量を構成した。具体的には、態度(①保育への熱意と情熱 ②受容的態度 ③毅然とした態度 ④人権に対する理解と態度)、技能(⑤専門的知識と技術 ⑥計画と環境構成 ⑦遊びと生活への援助 ⑧集団把握とその指導 ⑨得意分野の形成)、技能向上(⑩反省による保育の模索 ⑪自己研鑽 ⑫要配慮児への対応)、協働的關係(⑬保育者集団の質的向上 ⑭園運営での役割と見通し)、連携(⑮保護者との連携 ⑯地域との連携 ⑰小学校との連携)、視野の拡大と深化(⑱今日的な保育の課題への関心 ⑲他の学問領域への関心 ⑳研究への理解と深化)に類別した。さらに、養成段階では基礎的力量(①～

⑨)、現職段階では専門性を発展させる力量(⑩～⑳)が形成されると予想した。2章では、養成課程において基礎的力量を形成する取組みとして実習教科に導入するマイクロティーチング(MT)について論じた。MTとは、内容・時間・人数を縮小して教えることにより、教授スキルを訓練する方式である。実習は現場任せで実施されることが多く、実証的研究は少ない。そこで、幼児教育ではあまり活用されていないMTを導入する意義を論じた。3章では、現職者に専門性を発展させる力量を形成するための研修方法について論じた。子どもの行動観察研究、事例検討、相互保育観察(公開保育)といった研修方法が専門性を発展させる力量形成に有効と論じた。

第Ⅱ部では、実際に保育科の実習教育において、実施方法の異なる3種類のMTを行った。事前指導型MTとフィードバック型MTでは幼児を指導し、指導実践前後に幼稚園教諭である指導監督者が助言する。事前指導型では指導実践前に保育状況を予測することに重点を置くのに対して、フィードバック型では指導実践後の反省に重点を置く。一方、簡易型MTは学生が幼児役となり、かつ訓練時間数が少ない。各MTの効果については、MTについての学生の有効性認識を測定する「幼稚園教員養成用MT有効性測定尺度(EMTKS)」と「簡易型EMTKS」を作成して検証したところ、3種類とも基礎的力量①②③⑤⑥⑦⑧が形成されることが示された。ただし、指導監督者が評定する「実地指導技術・幼児行動評価リスト」とEMTKSとの関連をみると、事前指導型MTでは現場の実習未経験な学生は保育状況を予測しにくく、幼児指導で萎縮して保育技術が低下する傾向が見られたのに対し、フィードバック型MTは指導態度が良く(力量①②③)、保育内容を理解して指導(力量⑤⑥⑦⑧)していた。MTの種類によって基礎的力量形成の様相が異なるという結果からは、学年や訓練可能時間数を考慮してMTを選択する必要性が示唆された。

第Ⅲ部では、ある地方自治体の地域合同研修に助言者として参加し、行動観察研究と事例検討、公開保育を企画・実施した実践について検討した。保育者に研修の有効性の評定を求めた結果、いずれの研究においても有効性があると認識されていることが示された。具体的には、行動観察研究では、保育者は乳幼児の実態などを把握するとともに、研究方法を学び、力量⑤⑩⑬⑳が形成されていた。事例検討では、保育者は対象児への対応を模索する機会を得た結果、専門性発展の力量の技能向上(⑩⑪⑫)だけでなく、基礎的力量の技能(⑤⑥⑦⑧)をも洗練させていた。公開保育では事例検討を基礎として資料作成を行った結果、力量①から⑳の中で⑨⑭⑱を除いた力量を形成していた。以上の結果からは、研修の種類によって形成される力量が異なること、現職段階においても基礎的力量の形成や洗練がなされることが示唆された。

第Ⅰ部においては保育者の力量形成を養成・現職別に捉えていたが、第Ⅱ部と第Ⅲ部で実証的に検討した結果、基礎的力量を核にして養成と現職とにおいて力量形成を連続的にとら

えることの必要性が確認された。そこで、第Ⅳ部では、MTを軸とした養成段階から現職段階へとつながる力量形成援助モデルを提言した。養成の実習教科では「見学実習→マイクロ・レッスン→観察参加実習→フィードバック型MT→実地指導実習→事前指導型MT」と進み、並行して講義授業においても簡易型MTにて理論と技術の融合を図ることを提案した。現職者研修では保育経験年数や現在の関心事に考慮したMTを導入していくとともに、従来のMTの枠を超えて、研修者の即時の判断や行動をせまる即興性のあるMTを行う可能性についても提案した。